

# 地理オリンピックへの招待

## ー公式ガイドブック・問題集ー

掲載問題等カラー図版および資料  
(修正事項を含む)

ガイドブック掲載の写真・画像の一部です。  
問や解説等はガイドブックをご覧ください。  
ガイドブックは書店および下記サイトより購入できます。

<http://www.kokon.co.jp/book/b373671.html>



# 誤植修正

校正ミスです。修正をお願いします。

申し訳ありませんがこれによる返品お取替えは致しません。

P11 問3

(問題文) 誤:京都市内 正:京都近郊

P12 解説文中の 市内 も 近郊 に修正

P28

(解説文) 誤 ナイジェリア 正 コンゴ民主共和国

P30

(解説文) 下から4行目 誤 …出題していることもポイントである。

正 …出題していることもポイントである。

P36 問15

(解答) 誤 ② 正 ③

P38 問16

(解答) 誤 ② 正 ①

# 質問事項と回答

## P8 問1の解説文

①はグラナダではなくセビリアではないか？

このスケールの地図の正確さから考えると、セビリアとも考えられる。いずれにしても、現在スペインの住民はカトリックが中心であり、街中にモスクが複数林立する景観をみることはできない。出題側としては、このスケールの地図でセビリアかグラナダかを判別させることはしない。



## 第2章 過去問にチャレンジ

### 第一次試験 ー マルチメディア試験



P7 問1

(2009年8月撮影)

## P9 問2

(2016年9月撮影)







P11 問3

(2015年撮影)

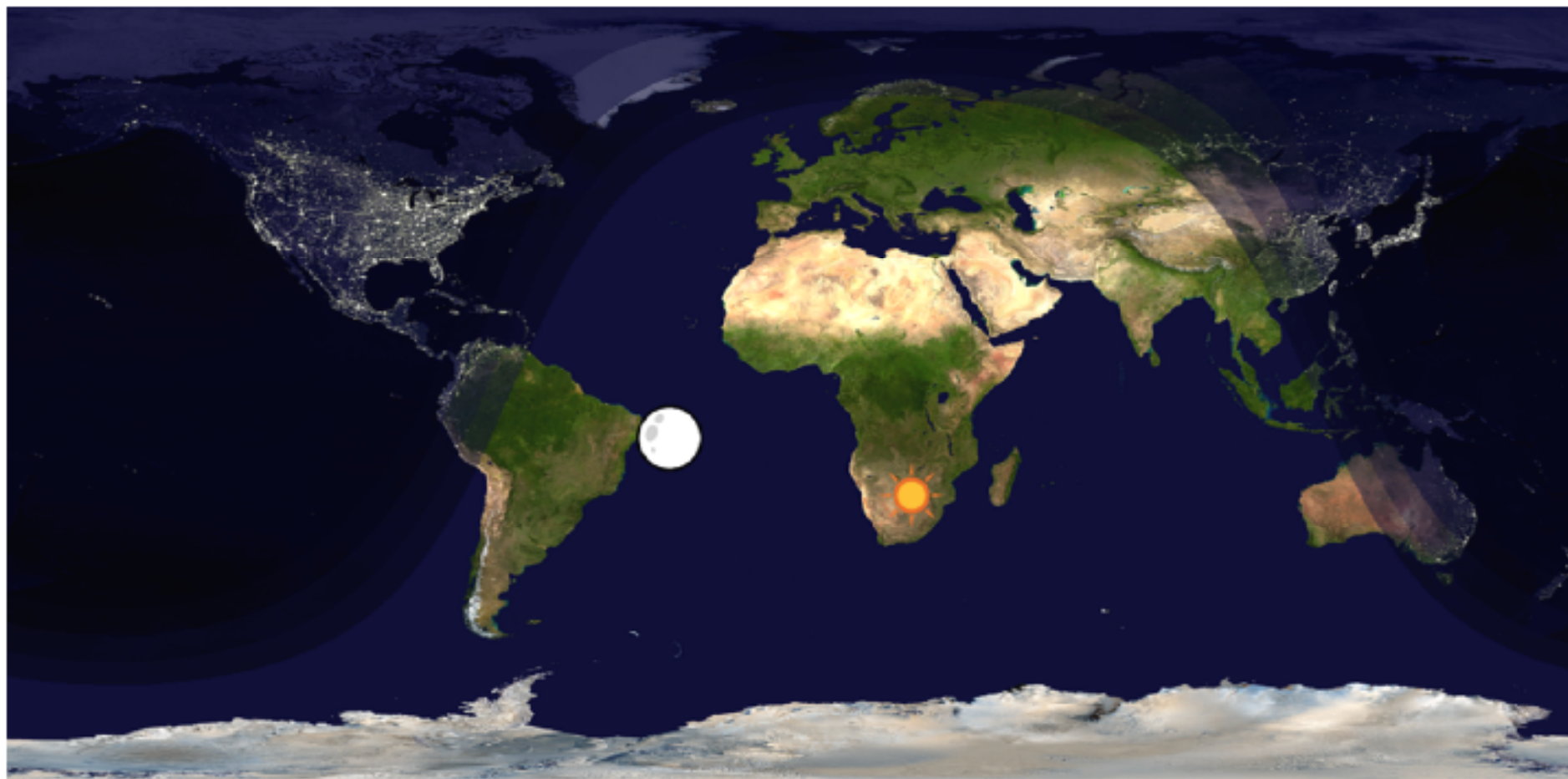
問題文訂正 (誤) 京都市内 (正) 京都近郊



P13 問4

(2013年8月撮影)





P15 問5

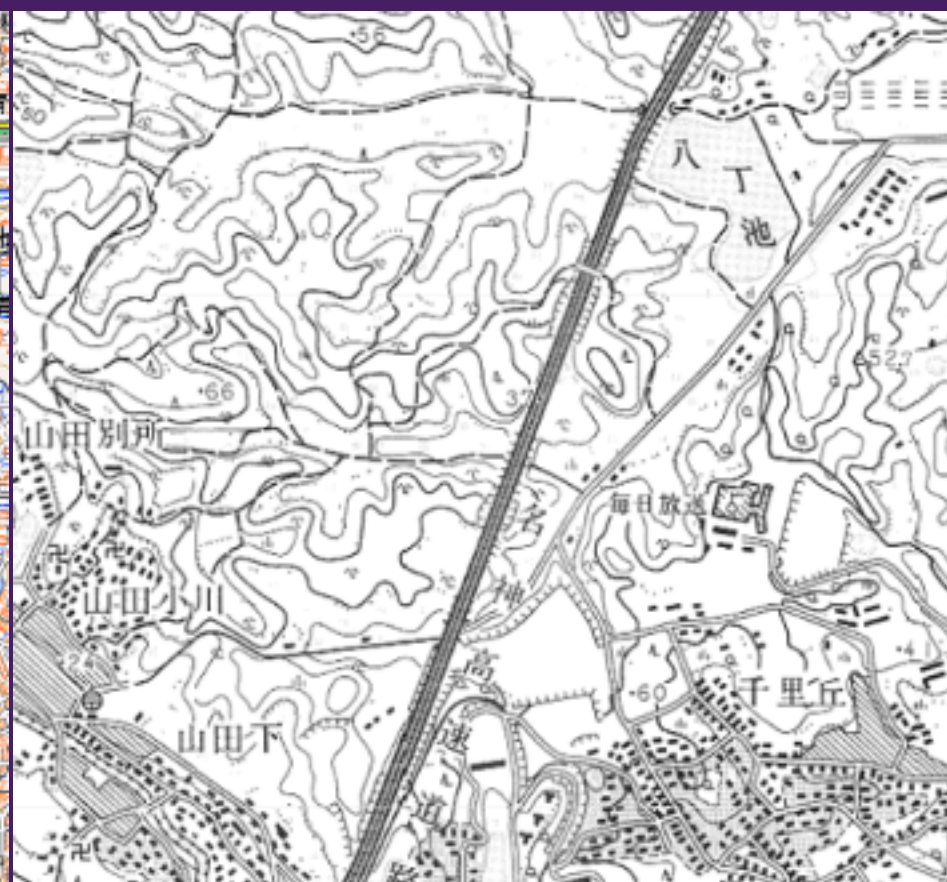
出所 <https://www.timeanddate.com/worldclock/sunearth.html>

# P31 問13



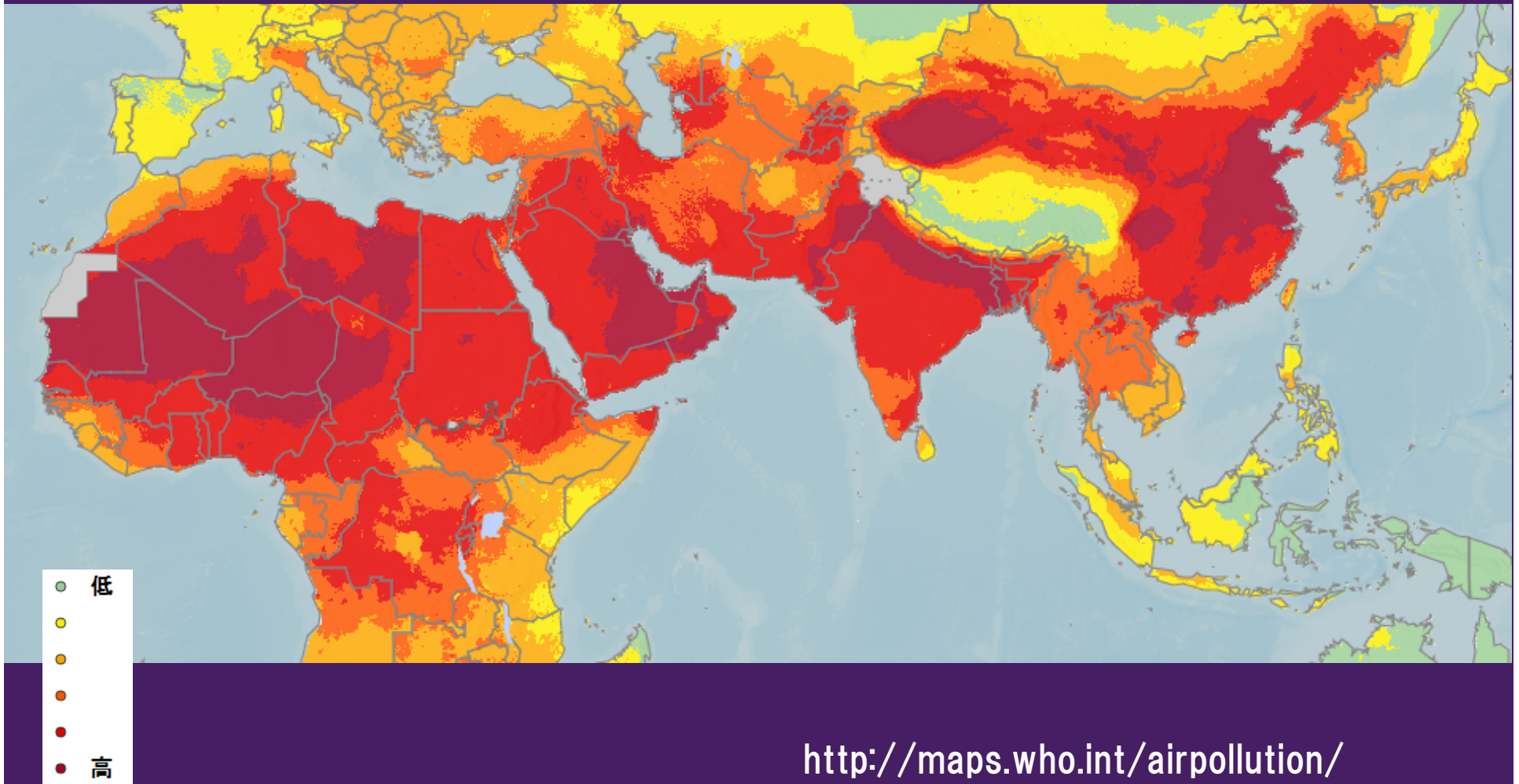


# P33 問14



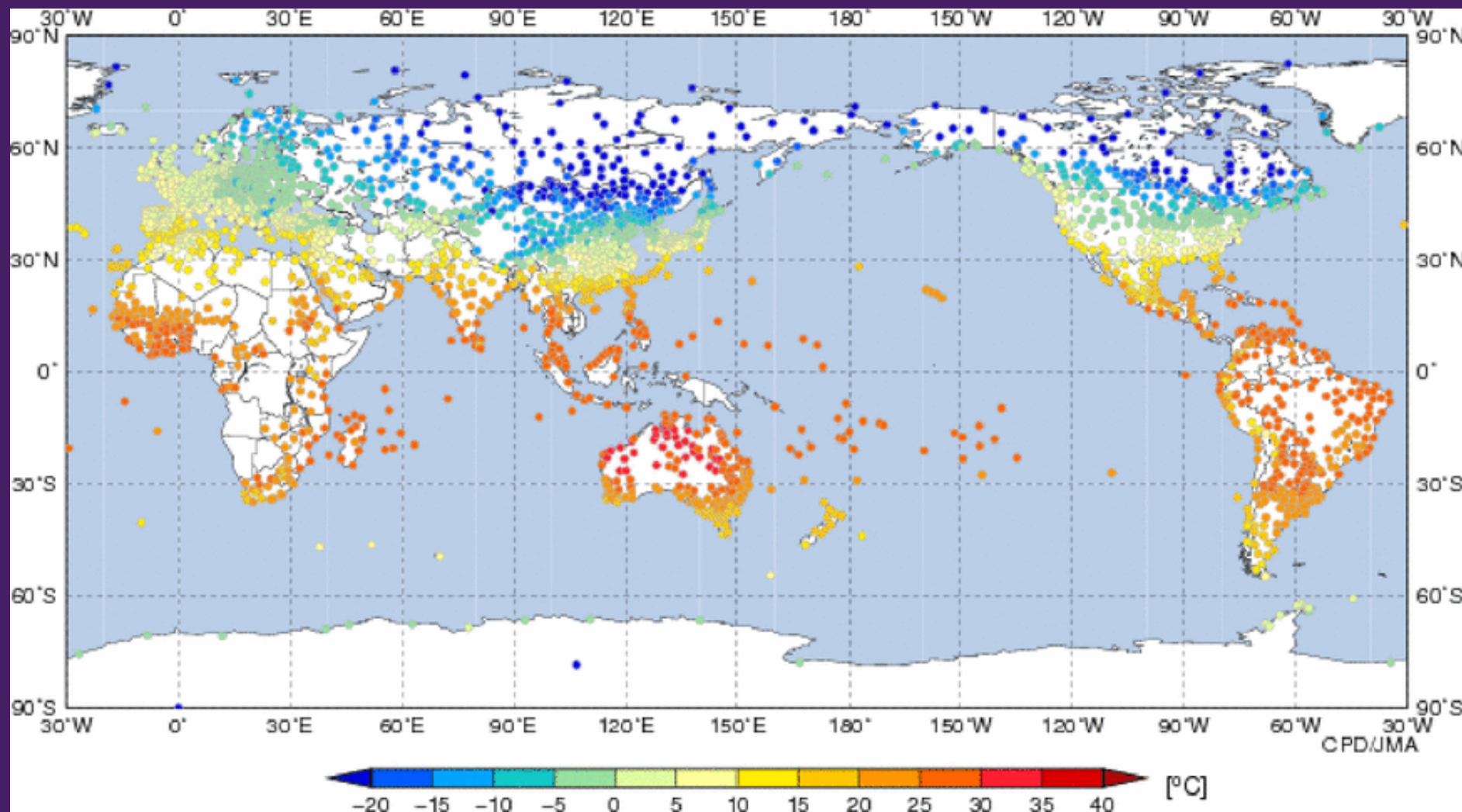


# P47 問21



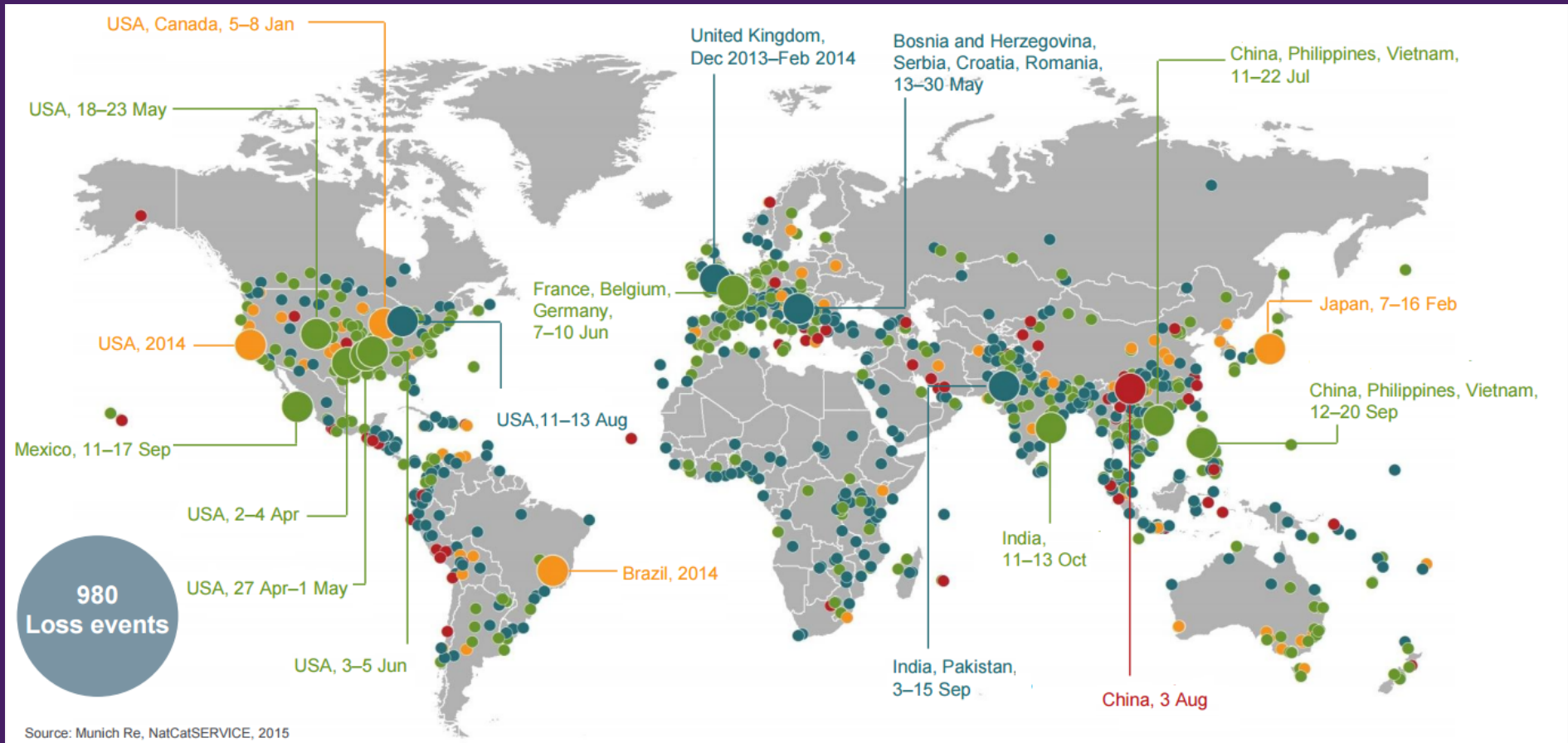
<http://maps.who.int/airpollution/>

# P49 問22



<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climfig/?tm=normal&el=tn>

# P55 Q25

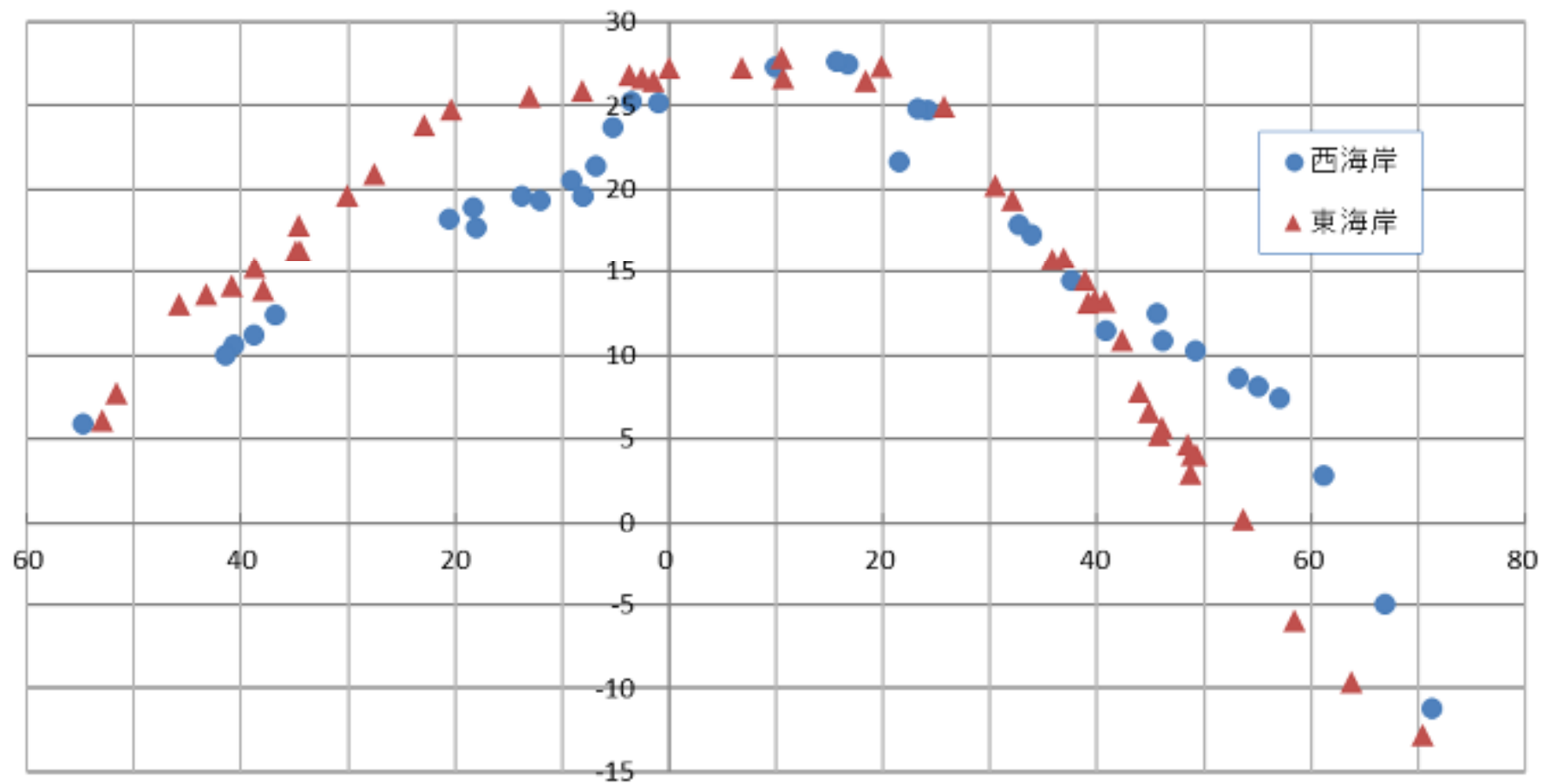


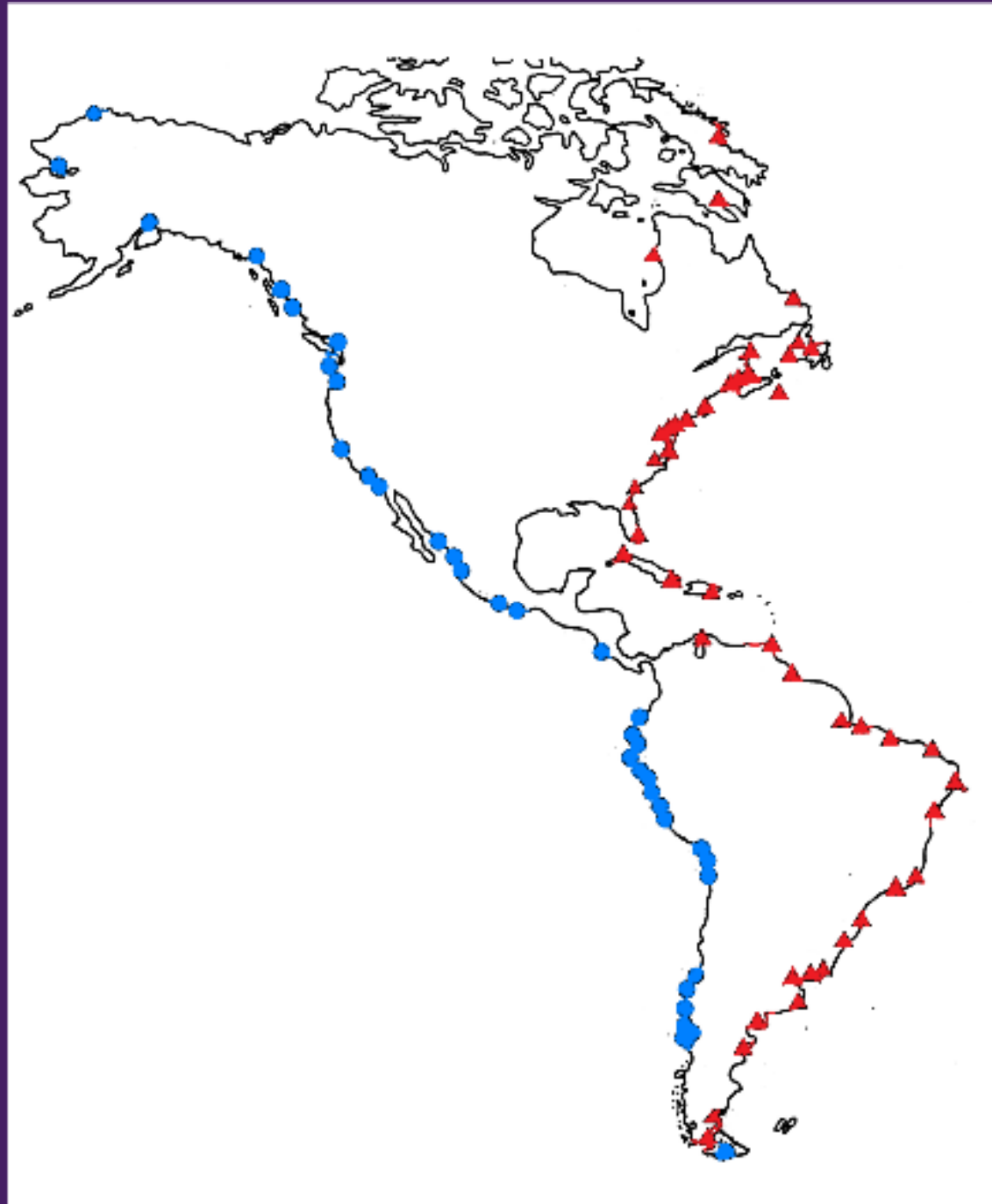
Source; <http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Munich-Re-World-map-Natural-catastrophes-2014.pdf>

## 第2章 過去問にチャレンジ

### 第二次試験 一 記述式試験

# P59 問1







## P63 問3



図1

国土地理院2014年発行2万5千分の1地形図「穂高岳」

P68



図3 図1中にAで示されている堤防の切れ目  
（○で囲まれている部分）  
（2014年撮影）

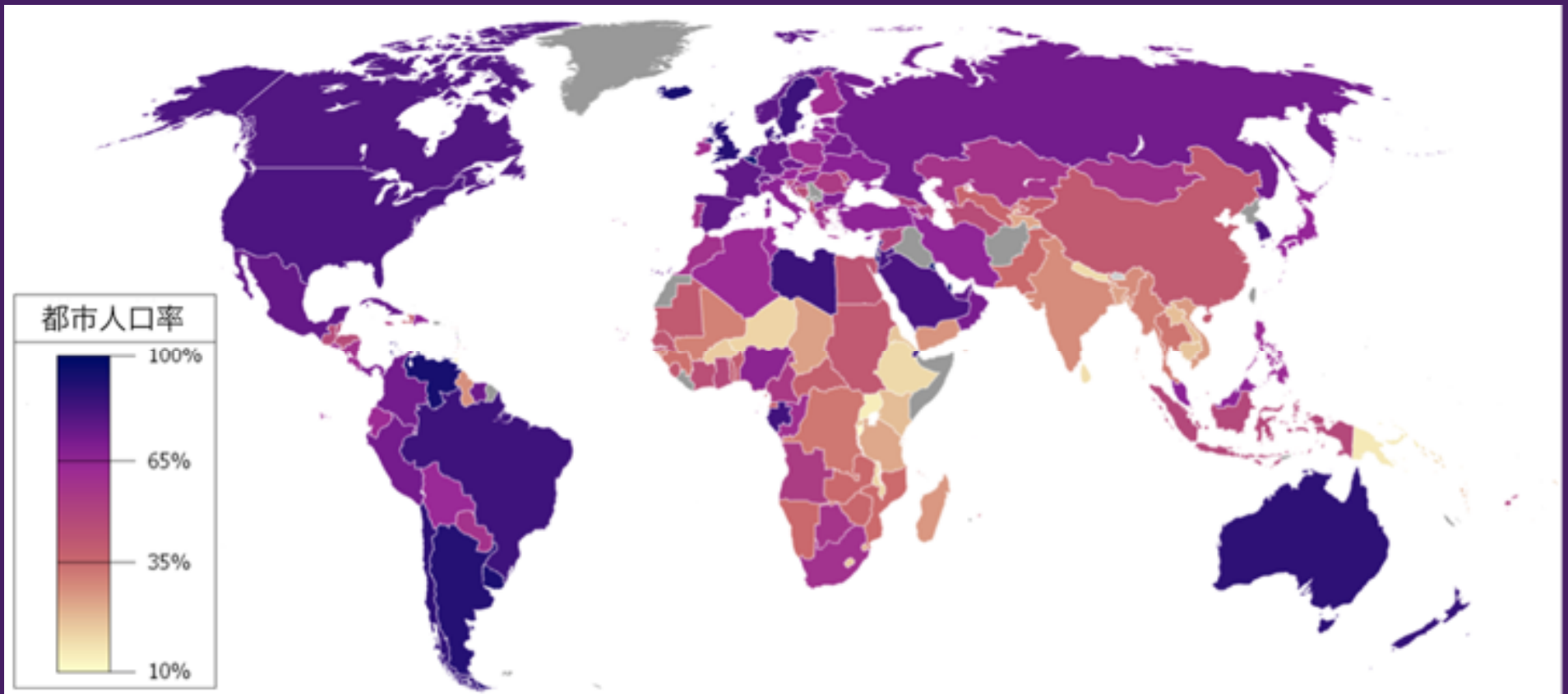


P69



図5 図2中[ ]部分の拡大  
(「地理院地図」2016年12月出力に一部加筆)

# P73 問1





P83

図3

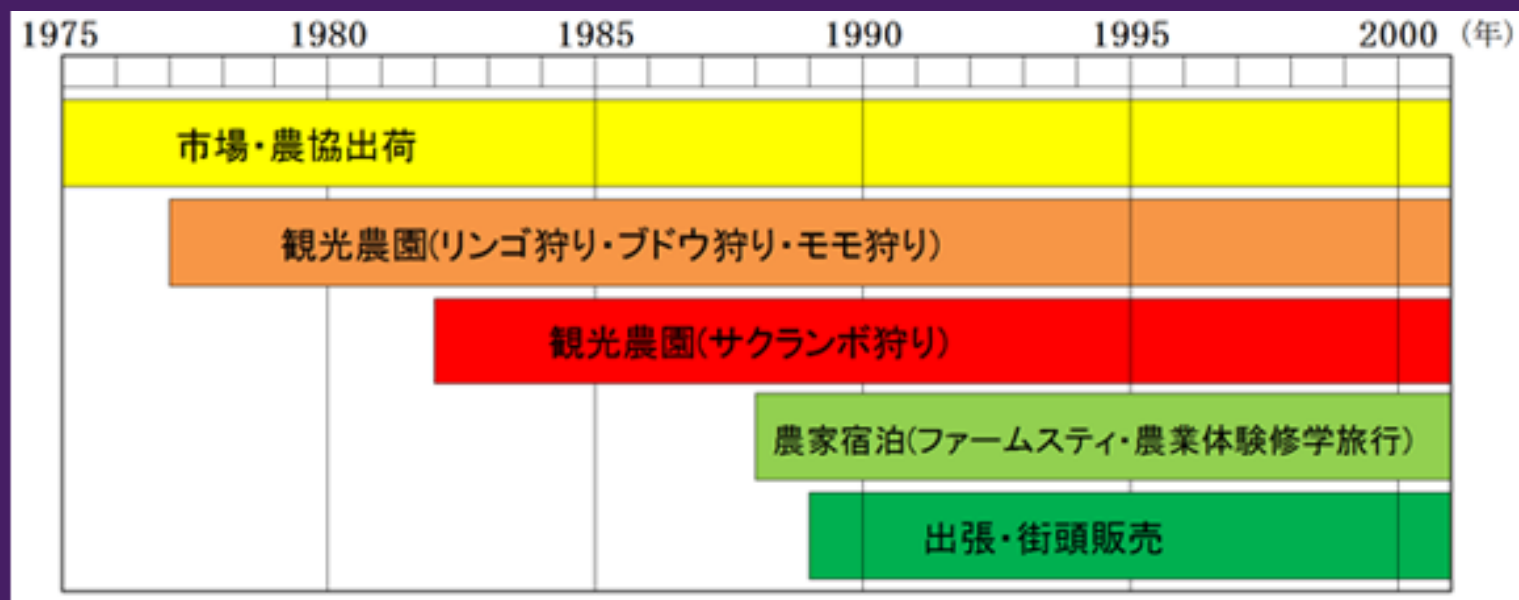
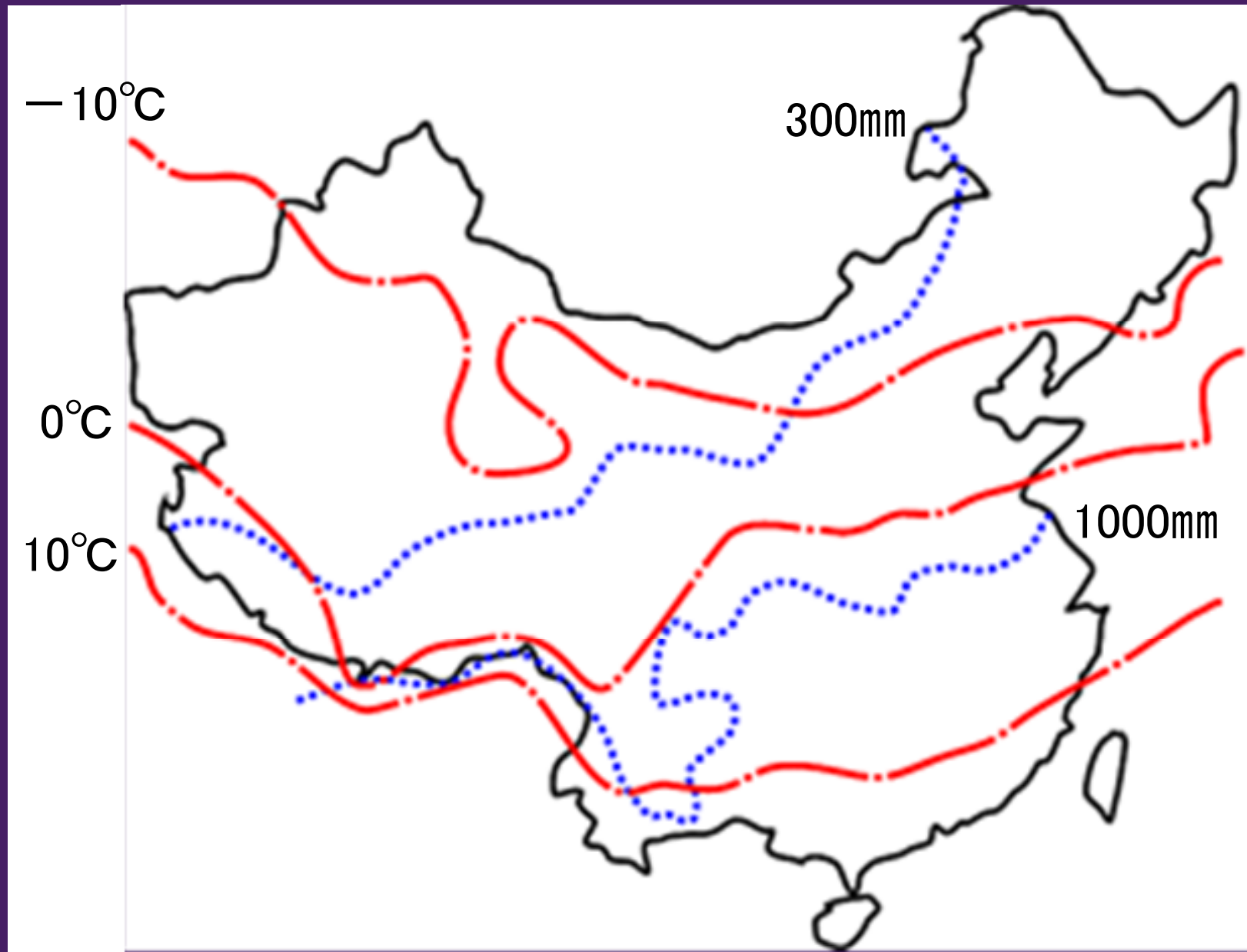


図4



P87



B: Mean temperature of January and annual precipitation in China

P89

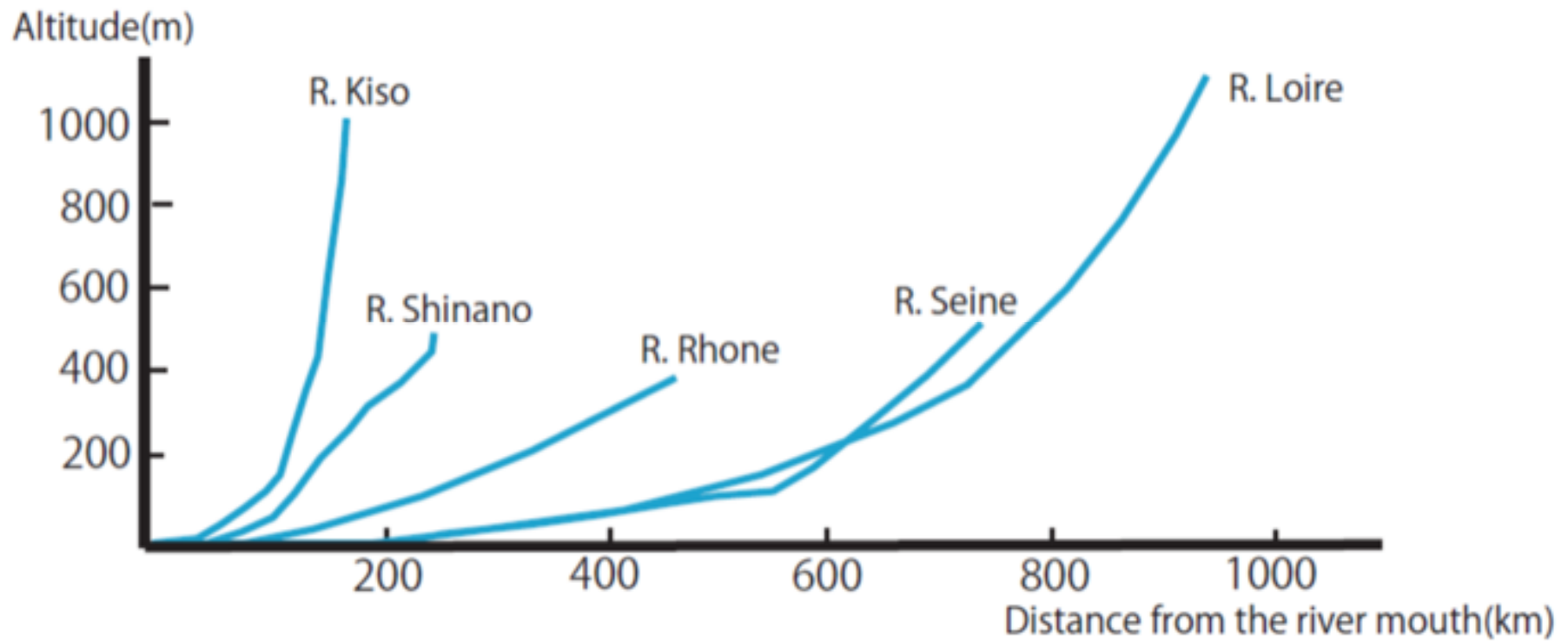


Figure 1 Longitudinal profiles of rivers in France and Japan  
(Note: The graph does not include headwaters of rivers.)

P89



Figure 2 Climatic zones in Europe

( Introduction to Geography: People, Place & Environment . Pearson, UK )

## 第2章 過去問にチャレンジ

### 第三次試験 ー フィールドワーク試験



# P97 資料

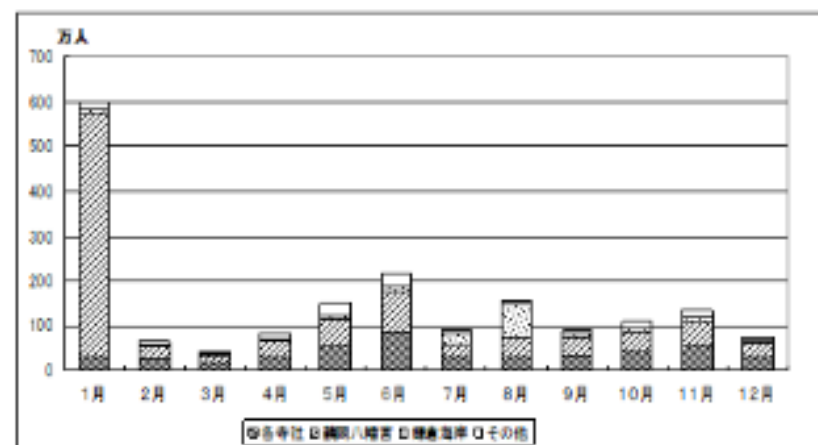
## 資料 1 鎌倉の観光と災害

鎌倉市は年間 1,800 万人余(2012 年)の人々が訪れる観光地である。なかでも、円覚寺や建長寺、鶴岡八幡宮などの寺社と鎌倉海岸(材木座海岸、由比ガ浜海岸)のある鎌倉地域は観光地「鎌倉」の中核となっている(表 3-1、図 3-1)。

表 3-1 鎌倉市における観光地別観光客数

単位: 人		(各年中)		
入込観光客数の内訳		平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
有料施設	各 寺 社	5,150,822	5,111,854	4,582,260
	県立近代美術館	47,710	35,054	37,948
	市立鎌倉国宝館	58,586	59,007	54,996
	市立鎌倉文学館	104,870	100,064	92,653
	県立フラワーセンター	263,025	218,502	211,011
小 計		5,625,013	5,524,481	4,978,868
無料施設	鶴岡八幡宮	9,432,700	10,197,500	10,211,500
	銭洗弁財天	1,123,500	1,062,600	888,500
	鎌倉海岸	2,189,400	2,285,600	1,679,000
	天園ハイキングコース	463,100	416,300	353,000
	小 計	13,208,700	13,962,000	13,132,000
合 計		18,833,713	19,486,481	18,110,868

(鎌倉市「平成 24(2012)年版 鎌倉の統計」より抜粋)



(鎌倉市「平成 24(2012)年版 鎌倉の統計」より作成)

図 3-1 鎌倉市の主な観光地における月別観光客数の推移(2012 年)

※表 1、図 1 とは神奈川県入込観光客数調査による推計数。「各寺社」は主なものの合計数であり、寺社総数ではない。

その一方で、三方を丘陵に囲まれ相模湾に面した鎌倉地域は、これまで少なからず台風などによる浸水や地震・津波による災害を被ってきた地でもある(表 3-2・図 3-2、表 3-3・図 3-3)。

表 3-2 鎌倉市の(1990、2004 年)浸水被害

発災年月日	1990(H2)年	2004(H16)年
	9.30-10.1	10.8-10.9
被災原因	台風 20 号	台風 22 号
	床下浸水	603 戸
被害状況	床上浸水	229 戸
	539 戸	

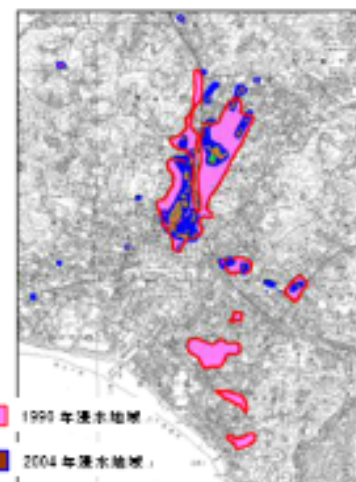
※ 被害状況は鎌倉市全域。

(鎌倉市「鎌倉市地域防災計画 基礎調査」による)



(鎌倉市「津波ハザードマップ」より抜粋)

図 3-3 由比ガ浜津波の跡



(鎌倉市「鎌倉市浸水被害図」より抜粋)

図 3-2 鎌倉地域の浸水状況

表 3-3 関東大震災における鎌倉市\*の主な字別被害戸数

主な字名	全戸数	全 損	全 焼	流 失	死者数
雪ノ下	432	229	75	-	27
高が谷	192	70	1	-	17
小 町	435	123	158	-	40
大 町	527	196	-	-	21
由比ガ浜	662	176	105	-	74
乱橋材木座	607	250	1	30	59
長 谷	553	161	102	30	92
坂ノ下	361	161	-	53	52
その他の字	414	87	-	-	17
合 計	4183	1453	443	113	412

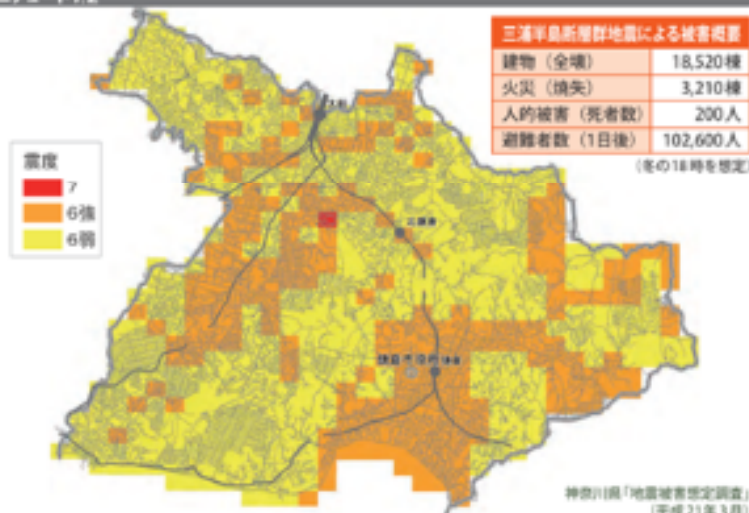
\* 横濱市域のうち、鎌倉地域(十二所津・寺二所津・高門・雪ノ下・高が谷・小町・大町・鶴岡町・由比ガ浜・材木座・長谷・坂ノ下・鶴岡中・鶴岡町・乱橋・鶴岡町)に該当。(※ 2012 年による)



そうした災害のうち、今後、発生の確率が比較的高く、鎌倉市に大きな被害を与える災害として、三浦半島断層群地震と南関東地震が想定され、市ではそれらに対応する地域防災計画(地震災害対策編)を策定している(図3-4・5、表3-4)。

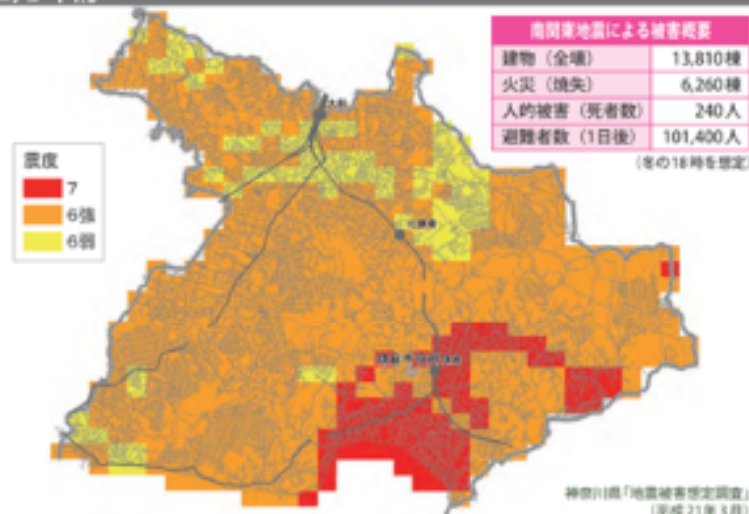
### 三浦半島断層群地震

マグニチュード7.2



### 南関東地震

マグニチュード7.9



三浦半島の衣笠・北沢断層帯、東山断層帯活断層を震源とし、30年以内の発生確率は6~11%、  
 中大正関東地震と同じく、相模トラフ沿いを震源域とし、30年以内の発生確率はほぼ0~1%。

図3-4 三浦半島断層群地震・南関東地震の震度と被害概要想定。



### 【レベル1津波】津波防護レベル

最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波

#### 県想定南関東地震(マグニチュード7.9)

大正12年(1923年)関東地震の再来を県が想定したもので、  
 到達時間が短いケースです。  
 市内では、最大震度7の揺れも想定されています。

●第1波到達時間  
10~15分程度  
●市内の最大津波高  
8.0m

### 【レベル2津波】津波減災レベル

発生頻度はきわめて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波

#### 県想定明応型地震(マグニチュード8.4相当)

神奈川県津波浸水想定のうち、市内の浸水範囲が最大となる  
 ケースで、明応年間(1492~1501年)に発生したとされる  
 地震をもとに、県が想定したものです。

●第1波到達時間  
50~60分程度  
●市内の最大津波高  
12.9m

#### 県想定慶長型地震(マグニチュード8.5相当)

神奈川県津波浸水想定のうち、市内の津波高が最大となる  
 ケースで、慶長9年(1605年)頃に発生したとされる地震をも  
 とに、県が想定したものです。

●第1波到達時間  
40分程度  
●市内の最大津波高  
14.5m

#### 南海トラフを震源とする巨大地震(マグニチュード9.1相当)

近い将来、大きな地震の発生が懸念されている南海トラフで、  
 東日本大震災クラスの巨大地震・津波が発生した場合を想定し  
 たものです。国(中央防災会議)が平成24年8月に公表した11  
 ケースのうち市内への影響が最大となるものを採用しています。

●第1波到達時間  
60分程度  
●市内の最大津波高  
9~10m

図3-5 鎌倉市に津波が予想される地震と浸水範囲想定。

表3-4 「鎌倉市地域防災計画」中の観光客等を対象にした項目。

- 地域の実情に合わせた津波避難路・避難場所・避難標識の整備を推進します。
- 津波ハザードマップや地理的条件等を考慮し、安全かつ迅速に避難できる津波避難ビル(津波来襲時緊急避難建築物)の指定・協定の締結を促します。
- 災害発生により帰宅の手立てを失い、明周辺、市街地、社寺・名所旧跡などに滞留している人に対し、一時滞在施設を提供します。
- 周辺の土地に不案内な帰宅困難者に的確な行動を促すため、十分な情報提供を行います。

(図3-4・5、表3-4はいずれも鎌倉市「地域防災計画(地震災害編)」の主な対応ポイントによる。)

## 資料2 鎌倉地域海拔マップ



※図の縮尺はスケールによる。



(鎌倉市総合防災課「鎌倉市海拔マップ(平成29年8月作成)」より抜粋)

参考資料

ガイドライン

P135

	<i>Points</i>	<i>Lines</i>	<i>Areas</i>	<i>Best to show</i>
<i>Shape</i>		<i>possible, but too weird to show</i>	<i>cartogram</i>	<i>qualitative differences</i>
<i>Size</i>			<i>cartogram</i>	<i>quantitative differences</i>
<i>Color Hue</i>				<i>qualitative differences</i>
<i>Color Value</i>				<i>quantitative differences</i>
<i>Color Intensity</i>				<i>qualitative differences</i>
<i>Texture</i>				<i>qualitative &amp; quantitative differences</i>

原図は、Jacques Bertin(1967) : *Semiologie Graphique* による。